

【編集後記】「阪神・淡路大震災から 25 年」

6,434 人もの尊い命が奪われた阪神・淡路大震災から 25 年が経つ。この大震災の経験と教訓を踏まえ、政府や地方自治体の危機管理体制が強化され、防災対策の様々な仕組みも作られた。

首相官邸に危機管理センターが設置されたのは平成 8 年 4 月で、24 時間の情報集約体制となった。緊急消防援助隊や災害派遣医療チームなどの広域応援の取組は阪神・淡路大震災が教訓となっており、被災者生活再建支援制度も大震災が契機となって創設された。また、当時、全国から多くの災害ボランティアが被災地に駆け付け、「ボランティア元年」とも呼ばれた。地域における災害に強いまちづくりを表彰する総務省消防庁の「防災まちづくり大賞」の事業が始まったのも平成 8 年である。

防災対策に終わりはない。更なる充実強化を望むとともに、我々一人ひとりも防災への意識をより一層高めていかなければならない。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2020 年 2 月号（通巻 30 号）

■発行日 令和 2 年 2 月 15 日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 西藤 公司

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (6205) 7851

URL <http://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社